

2023  
秀作

## 第21回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# 魅力を生かした雇用とコミュニティー

宮崎県・宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 5年 竹尾 薫

宮崎県北部に位置する「高千穂郷・椎葉山地域」は、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村の5つの町村から成る地域であり、「世界農業遺産」に認定・評価されるほど、古くから農業や伝統文化が受け継がれている。私はこの高千穂郷・椎葉山地域に住む人々を更に活性化させるために、農林業雇用者の増加とコミュニティーの強化を目指すべきであると考えている。

この地域の課題としてまず一番に挙げられるのは、急激な少子高齢化と人口流出による過疎化であろう。日本財団の調査によると、多くの若者が「多様なチャンスがある」「就労の選択肢が多い」等といった理由で田舎に住むことを諦め、手放している<sup>1)</sup>。言い換えれば、職業の選択肢があってステップアップの機会があれば、町村外への人の流出を抑えられるのである。ではどのような雇用を増やすか。比較的交通の便の悪い過疎地域では、都会のような雇用展開を真似することは難しい。それならば「地域ならではの」雇用、耕作面積の広い高千穂郷・椎葉山地域における「農林業」は、都会では不可能に近く、何百年も受け継がれてきた農林業のスキルで、他地域と差別化が可能である。現状でスキルを持っているにもかかわらずなぜこの地域と他地域が差別化できていないのかというと、やはり働き手が少なく高齢化している分、生産量も少なくなりインパクトが薄くなるからであると考えている。この生産量を増やすために、農林業の雇用を増やしたいが、農業をはじめとする第一次産業従事者が年々減少しているのは総務省統計局が実施している国勢調査から見ても明らかである<sup>2)</sup>。しかし、『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』著者の藻谷浩介氏によると、林業がここ最近、最先端の産業に生まれ変わっているようだ<sup>3)</sup>。今日、原油価格高騰問題が至る所で叫ばれているが、問題解決の一番手早い方法というのは、当たり前だが石油を使わないこと。高いお金を払って皆が石油を買ってしまえば当然日本のお金は外国へどんどん流出してしまう。日本における地方でも同

じように、町村外から石油を買って、遠い所まで運び込んで使っていると考えれば、何とももったいない出費をされていて、どれだけ私たちが石油に依存しているかが分かる。そこで、同じような現状にあったオーストリアは、エネルギーを石油から変更したそうだ。林業の盛んなオーストリアでは、木くずから作った安価で燃焼効率もよいペレットをエネルギーとしている。オーストリアで作ったものをオーストリアで使う。輸入費も運搬費もそれほどかからなくなるのだ。また、ペレット製作を始めてから、地域内で雇用が生まれ、税収も上がり、人々が豊かになったという<sup>4)</sup>。地産地消の考え方の大切さを改めて藻谷氏は説いている。高千穂郷・椎葉山地域においてもこういった考え方が重要なのだ。自分たちにしかないものを見極めて、作ったものを自分たちで使う。そうすれば価値は評価され、他地域の資源へ依存しなくて済む。この地域は農林業が盛んなこともあり他地域への依存度は小さい方かもしれないが、依存度が小さいのならば、やはり生産量の増加を図っていくべきである。農林業の雇用を増やすと述べたが、例えばこの地域では2016年、乾シイタケは278トン生産されていて、全国第2位の生産量を誇る宮崎県の実産量の過半数を占めている<sup>5)</sup>。こういった農作物生産の雇用を増やし、必要分の外貨を獲得し、更に重要なのはこの地域に働きに来た若者に、ずっとこの地域で働いてもらえるような働きかけをすることだ。そして、それが私が2点目に挙げた「コミュニティーの強化」である。

先ほど紹介した藻谷氏は次のような事例を著書で挙げている。広島県庄原市では、地元で取れた半端物の野菜を地元の老人向け福祉施設の食材として活用していて、この野菜たちは、家庭菜園を営む地域のおじいちゃん、おばあちゃんに余った野菜の寄付を呼びかけて集めているという。おじいちゃん、おばあちゃんたちも自分たちだけでは食べ切れなかった野菜の活用に悩んでいたそうで、福祉施設側も、地域外の市場で買うよりも食材費が浮いた<sup>6)</sup>。また、集めた食材を使った料理を子どもから大人まで自由に提供し憩いの場を作る取り組みもされているそうだ。高千穂郷・椎葉山地域は若い世代と高齢者世代の交流が少ない。農林業の雇用を増やしてせつかく若者を呼び寄せたならば、過疎地域だからこそ人々の温かさやのどかさ、人同士の心の繋がりを感じてもらったり実際に繋がったりできる機会を作りたい。この地域の良さに気づけば、またここで長く働いて経済を回す一員となれるはずだ。安心できるコミュニティーの中

に自分も入っている状態というのは、その地域に住み続けたいと思える理由の一つなのだろうと思う。

田舎は都会に比べてハンデがあるように見える。ただその逆も然りだ。都会には無いものをたくさん持っている。それを上手く活用して雇用を増やし、若者を呼び込む。そして彼らを始めとする地域住民たちが交流できるコミュニティを作り、移住・定住を図る。これらの方法は、高千穂郷・椎葉山地域の人々を金銭面、そして精神面でも豊かにできると考えている。

(注)

- 1) 日本財団「第10回18歳意識調査 テーマ：地方創生について」  
URL [https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/02/wha\\_pro\\_eig\\_48.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/02/wha_pro_eig_48.pdf)  
閲覧日 2023年9月12日
- 2) 総務省統計局「令和2年国勢調査 就業状態等基本集計結果 結果の概要」  
URL [https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline\\_02.pdf](https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline_02.pdf)  
閲覧日 2023年9月12日
- 3) 4) 6) 藻谷浩介、NHK広島取材班『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』KADOKAWA、2013年7月
- 5) 世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会『高千穂郷・椎葉山地域 世界農業遺産』宮崎県

